

地域の実態を生かした総合的な学習の時間授業開発研究部 研究報告（概要）

研究主題 横断的・総合的な学習、探究的な学習を大切にする総合的な学習の時間の研究
～総合的な学習の時間を成立させる要件の提案～

概要説明

学習指導要領改訂の意図を受け、これまで取り組まれてきた総合的な学習の時間の問題点（「学習事項の不明確さ」「学校間、教師間の格差」「行事や体験のみの取り組み」など）を見直し、本来の目的が達成されるための総合的な学習の時間の成立要件を探ることにした。この研究により、学校・学年に係らず総合的な学習の時間を、改訂された諸条件を満たし、横断的・総合的、探究的な学習として成立させることができると考えた。

本研究の＜キーワード＞

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------|
| <input type="radio"/> 問題解決的・探究的な学習 | <input type="radio"/> 協同 | <input type="radio"/> 課題解決学習 |
| <input type="radio"/> 育てたい力 | <input type="radio"/> 教師の意図 | <input type="radio"/> 明確な指導 |
| <input type="radio"/> 横断的・総合的な学習 | <input type="radio"/> 総合的な学習を成立させる単元の事前チェックシート | |

I 研究主題

横断的・総合的な学習、探究的な学習を大切にする総合的な学習の時間の研究
～総合的な学習の時間を成立させる要件の提案～

II 主題設定の理由

総合的な学習の時間（以下、総合的な学習）が、平成10年の改訂から段階的に施行されて10年。各学校で工夫した取り組みがなされてきた。しかし反面、様々な問題も表出してきた。体験的な活動だけがあり、子どもたちについて力が明確でなかったり、力がついていたりとしても、子どもたちにその蓄積が自覚されていなかったりしている。また、地域の実態に差があることや目標設定から各学校にゆだねられていることで、共通の場での研究は難しい。さらに、子どもたちが自ら課題を見つけ自ら解決していくという文言が一人歩きし、教師が指導をしないという場面も見られた。

平成20年の学習指導要領改訂は、これらの問題点を改善し、総合的な学習本来の目的を達成させようとする願いが込められている。現行指導要領では総則の一部であったものから、独立した新たな章立てで詳説され、これまでのようにあいまいな表現ではなく、「横断的・総合的な学習、探究的な学習」として定義づけがなされた。また、学習指導要領解説も出版された。

私たちは、今回の改訂の意図を受け止め、これまで取り組まれてきた総合的な学習の単元を見直し、本来の目的が達成されるための総合的な学習の成立要件を探ることにした。その方法として、総合的な学習を成立させるための単元の事前チェックシートを考案した。このチェックシートを活用して単元を見直したり、新たに単元を開発したりすることにより、改訂された総合的な学習の諸条件を満たし、横断的・総合的な学習、探究的な学習として総合的な学習を成立させることができるのではないかと考えたのである。

実際にチェックシートを使いながら検証授業を計画し、実践した。特筆すべきは研究員メンバーでの度重なる『話し合い』であった。本研究を校内研修・学年会議等の『話し合い』の場で、その一助にしていれば幸いである。

Ⅲ 研究の方法及び内容

1 研究経過

月	実施内容
6月	研究テーマ検討・各学校の課題把握・指導要領解説読み込み
7月	研究テーマ決定・総合的な学習が成立する要件のチェックシート作成
8月	指導者嶋野道弘先生に研究経過の報告・研究の進め方確認・授業者決定
9月	指導案検討・単元の事前チェックシート検討
10月	指導案検討・単元の事前チェックシート完成
11月	嶋野道弘先生と指導案検討・指導案完成
12月	検証授業・研究のまとめ・管外視察
1月	研究のまとめと今後の方向性の確認

2 研究方法

(1) 総合的な学習が成立する要件がわかる表の作成

総合的な学習が始まり研究が進んでいたころから一定の時期が経ち、異動に伴い新しい学校での総合的な学習の進めにくさを感じている教師が多い。また、総合的な学習が成り立つためには、必要な要件が含まれていなければならないが、そのことがあまり意識されていない。どの地域、学校、学年でも利用できる単元の事前チェックシートを利用することによって、育てたい力が育っているか、探究的な学習過程を経ているか、横断的・総合的であるかなど、総合の学習として成立しているか確認できると考えた。チェックシートは、新学習指導要領の内容を反映する形で作成した。

(2) 成立要件をふまえた単元開発

① 探究的な学習と話し合いが深まる場の設定

今までの総合的な学習の流れとして、体験したことや個人の課題を調べまとめて発信（表現）するという学習過程が一般的であった。しかしこれからの総合的な学習の学習過程では、他者と協同して課題を解決する学習や、探究的な学習が繰り返されることが重要になってくる。そのためには、課題に対し児童・生徒自らが試行錯誤し、結果を分析することで繰り返し課題が更新されていく学習過程が望ましい。そこで、一つ一つの体験や収集した資料を話し合いによって整理分析することに重点を置くことにした。事実に基づいて話し合うことでそこから新しい課題を見つけたり、次の活動へと繋げたりすることができるからである。話し合いが深まるように、事前に資料を確認する時間も設けた。

② 地域を生かし、課題を「他人事」から「自分事」にする工夫

環境問題を課題として扱う時に、地球規模でまとめていくと実生活とかけ離れてしまい、課題が他人事になりがちである。そこで、地域を繰り返し調査するなど児童・生徒が地域を深く理解する活動をしていけば、環境問題が自分にとってより身近な課題になり、主体的な学習が期待できると考えた。

③ 教師の意図と明確な指導

総合的な学習では体験活動を行うことを重視している。そこには単元のねらいや期待す

※2 単元について

直接体験があるか

実験・観察・調査活動等、直接体験が組み込まれているかを検討する。体験で得られたことを教師が教材化し、授業を進める。課題を自分たちの問題として認識するためには、直接体験を経て教材化された情報に基づく資料の整理分析が欠かせない。その中から自分にできることを探し、学習していくことが望ましい。

繰り返しの体験があるか

体験活動を繰り返すということで、課題を深くつかんだり、新たな課題に気づいたりすることができ、単元のねらいに迫ることができる。また、達成感や成就感の積み重ねにより、自分の思いを強めることにもつながる。

発展的な教材か

探究的な学習にするためには、児童・生徒の興味関心に沿って活動の幅を広げることができるかどうか重要である。また、単元終了後の児童・生徒の変容も期待したい。

横断的・総合的になっているか

単元についての横断的・総合的学習とは、国際理解・情報・環境・福祉・健康等、教科の枠にとらわれない学習を指す。各教科等との関連的な指導とすることが必要である。学習指導要領で教科等の学習内容を確認し、関連的な指導が可能な単元についてはその指導のねらいを共有したり、実施時期を調整したりするなどの工夫が必要である。また、児童・生徒の学習経験や意識において関連しているのかということについて常に検討することが重要である。(例：基礎的な言語活動・算数活動が組み込まれているかなど。)

児童・生徒の興味関心にそっているか

単元を通して児童が意欲的に活動するためには、興味関心に沿っていることが大前提である。さらにそれが身近な生活とどのようなかかわりがあるのかに気づかせるような工夫も必要である。事前に児童・生徒・生徒の興味関心を適切に把握するとともに、教材と魅力的な出会わせ方を工夫し、意図的な働きかけをしたい。

地域固有であるか

各学校が設置されている地域の特色を生かし、その地域にある素材を教材化し活用することが望ましい。

※3 期待する児童・生徒の変容

単元のねらいを単元終了までに自分のこととして捉え、考え、行動に移せるようにしたい。そのために教師自身が明確な見方や考え方をもち、児童・生徒が変容した望ましい姿を想定しておくことが重要である。

※4 単元全体を通しての探究的学習過程の意識化

学習指導要領では探究的学習と横断的・総合的学習は並列で扱われるものである。しかし、当研究部では探究的学習過程を中心に単元を組み立てることが総合的な学習が成立するためには重

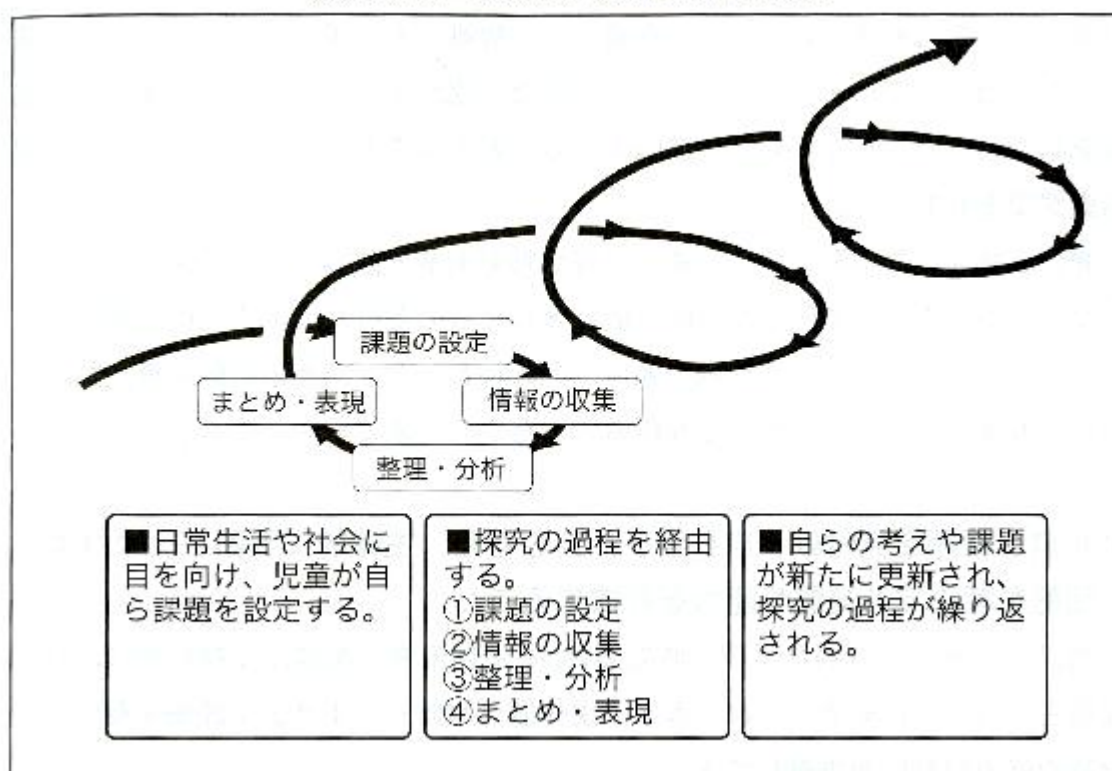
要と考え、縦軸に置いた。

探究的とは、物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営みのことであり、探究的な学習とするためには、学習過程が以下のようになることが重要である。

- ①課題設定
- ②情報収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

この①～④は順番が前後することもあり、また、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もある。このような課題追究を何度も繰り返し、スパイラルに高まっていくことで、新たな課題を生み出していく。小単元の中にもこの①～④があると考えることが必要である。

探究的な学習における児童の学習の姿



(小・中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」13ページより引用)

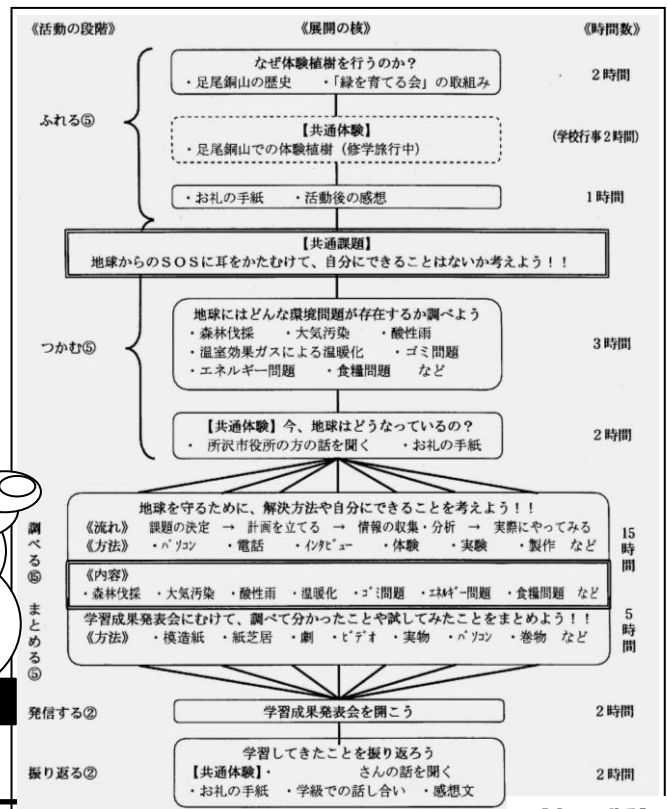
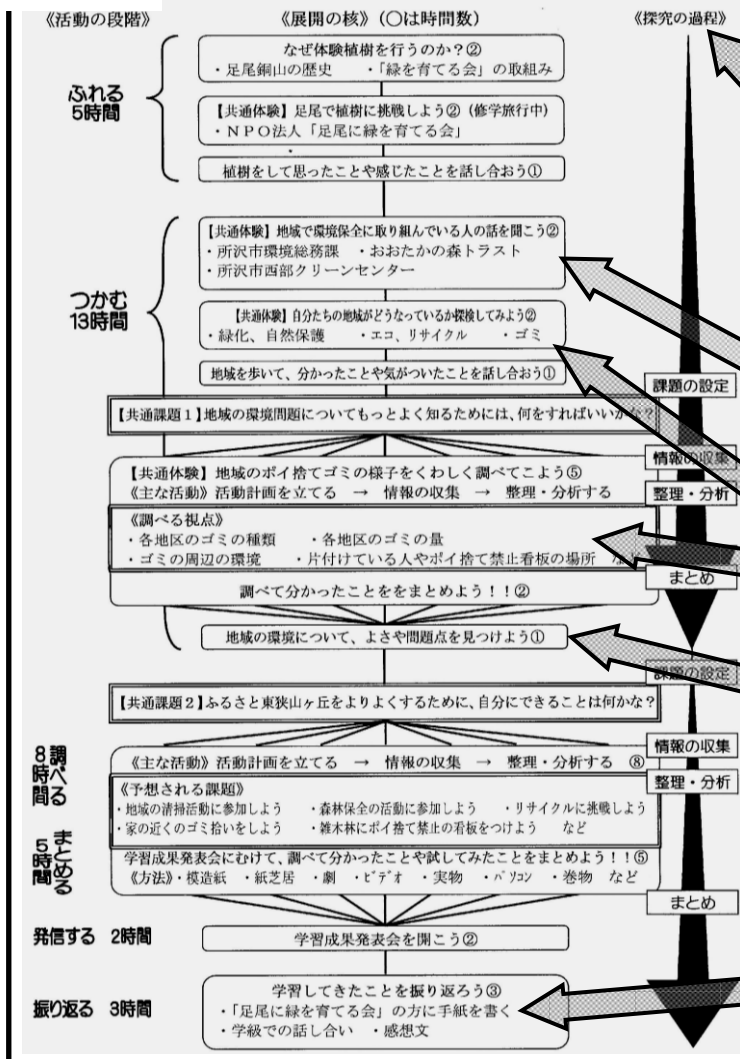
② チェックシートを活用した単元開発例

単元構想を研究する中で、拠り所としてきたのがチェックシートである。「総合的な学習を成立させる要件」が十分に含まれているか、単元のテーマや目標に沿った活動計画になっているか等、シートに照らし合わせて意見交換を重ねてきた。右に示した初回の構想案と、下の完成版を比較しながら、チェックシートを活用した単元開発例を紹介したい。

【チェックシートを見て気づいたこと】

- ・体験活動が少ないんじゃないかな。繰り返す体験が入られないかな。
- ・情報収集にチェックが少ない。課題をしっかりとつかむには、ここを大切にしないと！！
- ・地域に寄り添うには、どうしたらいいかな？単元名を変えてみようか。
- ・「他者と協同して…」の部分にチェックが無いから、話し合いをどこかに入られないかな。
- ・お世話になった方へ、最後にもう一度手紙を書くというのはどう？

【完成版】



【初回版】

《チェックシートをもとに変更した点》

地域と繰り返しかかわっていくことで、子どもたちは探究的に課題に迫ることができるはずだよ。じゃあ、共通課題を2つ作ってみよう。2つ目のサイクルの方がより深く地域に迫れるんじゃないかな。

地域の人のお話を実際に聞く活動を入れてみよう。環境保全に取り組む人の話を聞くことで、地域の環境に対する課題意識が高まると思うよ。

ここでしっかりと情報収集しよう。集めた情報を科学的・客観的に分析することで「地域」が見えてくるね。

活動はやりっ放しではいけないね。全員で話し合うことで、課題に対して深く理解することができるんだ。他者や社会とのかかわりに関する力を生かすことにもつながるね。

活動の最後に、もう一度足尾の人たちに手紙を書こう。自分たちの取り組みを振り返ると同時に、初心にかえることで、自分の成長した所に気がつくんだよ。

IV 実践例

第6学年1組 「マイ・チャレンジタイム」学習指導案

平成20年12月 4日(木) 教室

男子17名 女子18名 計35名

指導者 所沢市立宮前小学校 萩原秀基

1 単元名 「ふるさと東狭山ヶ丘を見つめて ～今、自分にできること～」

2 単元の目標

環境問題に関心を持ち、環境保全への見方や考え方を深めるとともに、「ふるさと狭山ヶ丘」の環境問題を解決するために自分にできることを主体的に考え、実践しようとする態度を育てる。

3 単元について

温室効果ガスによる地球温暖化や大規模な森林伐採など、地球上には深刻な環境問題が顕在している。そして、持続可能な社会を維持するためには、すべての人々が環境保全に対する理解を深め、進んで行動することが大切であるということは、日々見聞きする情報を通じてだれもが知ることとなった。

しかし、ニュースに登場するような大きな環境問題に直接ふれたことがなく、不自由なく日常生活を過ごしている本校の子どもたちにとって、こうした事実は自分たちの生活と遠くかけ離れた問題でしかなかった。環境保全への取り組みが、一人ひとりの心がけから始まることを考えた時、自分たちの目と足を使って地域をしっかりと見つめ、そこから浮き彫りになる環境問題やそれらを改善しようとしている人々の努力を知ることの必要性を実感した。大きな環境問題と身近な環境問題のかかわりに気づき、「ふるさと狭山ヶ丘」をよりよくしようとする態度の育成をねらいとして、本単元を設定した。

6年生の「マイ・チャレンジタイム」(以下「マイ・チャレ」)は、大きく分けて2つの単元で年間活動計画が構成されている。前半は福祉施設を数多く有する校区の特色を生かした「みんないきいき」、後半が「ふるさと東狭山ヶ丘を見つめて」である。2つの活動を結ぶキーワードは、【～今、自分にできること～】。「みんないきいき」が“福祉施設の人々”、「ふるさと東狭山ヶ丘を見つめて」が“地域”と対象は異なるものの、課題に対して【自分にできることは何か】主体的に考えながら活動することを子どもたちに求めている。最高学年としてどのように日々の生活を過ごしていったらよいか、常に課題に直面しながら自分たちで答えを出してきた6年生だからこそ、学習対象に積極的に働きかけながら充実した活動が展開できるものと考えている。

本単元を通して、一人ひとりの心がけから始まる環境保全の取り組みを広げるためには、内発的な課題意識が不可欠になってくる。そのためには、植樹体験で抱いた危機感をそのままに、地域の問題に対して真正面から向き合えるような活動を展開していきたい。森林保護、ゴミ処理、エコ活動などの視点から、地域で環境問題に取り組む人々の話を聞くことは、子どもたちの環境に対する意識をグッと引き寄せるはずである。また、地域の実態把握にこだわり、自分たちの地域のことを本気になって語り合うことは、地域をよりよくしようとする態度を引き出すことにつながられるだろう。

児童の思いに沿った主体的な活動を尊重するとともに、指導にあたっては課題に対する道筋を描きながら必要に応じた指導・助言を留意することで、一人ひとりが生き生きとした姿で取り組む授業を展開して

いきたい。

4 児童及び地域の実態

(1) 児童の実態

最高学年としての忙しい学校生活も半年を過ぎた。4月の頃は、幼さが目立ち指示待ちなところが多かった本学級の児童は、責任ある仕事や大きな行事にかかわりながら心身ともに少しずつ成長してきた。持ち前の明るさと男女の仲のよさに加え、最近は主体的な言動も見られるようになり、学校のリーダーとしての自覚が根付いてきたように思われる。学習面では、課題に対して積極的に取り組むことができるが、挙手・発言の偏りや自分の思いを伝えることへの苦手意識など個人差が見られる。

事前アンケートの結果（10月中旬実施 回答者数35名）

1、あなたは「マイ・チャレ」の時間が好きですか？

①とても好き	②好きな時もある	③あまり好きではない	④きらい
4人	22人	6人	3人

【好きな理由】

- ・見学、体験、交流などが好き（11）
- ・福祉の学習が勉強になる（8）
- ・パソコンや本で調べる時間があるから（3）
- ・地域のことがよく分かるから（2）
- ・自分の勉強したいことが選べるから
- ・調べている時がとてもわくわくするから
- ・いつもやらないことがやれるから
- ・自分の意見をはっきり言える時間だから

【嫌いな理由】

- ・福祉の学習がつまらない（3）
- ・全部ではないけれど、つまらない時がある（3）
- ・交流の時、人とふれあうのが難しい
- ・何が「マイ・チャレ」か分からない
- ・「これが勉強」と思う時がある

2、「マイ・チャレ」で「楽しかった」と思えるのはどんな時ですか？（複数回答可）

①課題を決める時	②情報を集めている時	③活動したことをまとめている時	④発表する時	⑤友達と話し合っている時	⑥体験したり見学したりする時
14人	15人	5人	6人	14人	23人

3、東狭山ヶ丘のよさって、どんなところですか？（自由記述）

- ・福祉施設がたくさんある（21）
- ・茶畑や林など自然がたくさんある（17）
- ・公園など遊ぶところがたくさんある（5）
- ・みんなが明るく元気（2）
- ・住みやすい
- ・名前の響きがよい
- ・都会っぽくもないし、田舎っぽくもない
- ・店やスーパーがいっぱいある
- ・地域の人たちがやさしい
- ・事件があまりない
- ・古紙回収などのリサイクルをしている

4、環境問題について知っていることを教えて下さい。（自由記述）

- ・地球温暖化（15）
- ・酸性雨（7）
- ・森林の減少（4）
- ・大気汚染（2）
- ・オゾン層の破壊
- ・海面上昇
- ・感染症
- ・ゴミのポイ捨て

5、4で答えたことについて、自分たちにできることはありますか。（自由記述）

- ・リサイクル（12）
- ・徒歩、自転車での移動（8）
- ・エコバックで買い物（8）
- ・ゴミをあまり出さない（7）
- ・ゴミの分別（6）
- ・自然を大切にする（6）

「マイ・チャレ」については、様々な体験活動や本校の特色である福祉教育に対して多くの児童が意欲的に取り組んでいる一方、十分に趣旨が理解できなかつたり課題意識が芽生えることなく活動を終えている児童がいることが分かった。体験活動への興味が高いことから、活動を通じて効果的に体験活動の場を設定し、個々の課題意識を引き出すことが不可欠だといえる。(アンケート1・2参照)

また、地域のよさについて、児童はこれまでの学習や実生活を通じて深く見つめていることが分かった。これらのよさを心に留めながら、より深く課題を追究していきたい。(アンケート3参照)

環境問題については、地球温暖化をはじめ、規模の大きな問題を知っている児童が複数いた。しかし、「自分たちにできること」という項目と比較すると回答数が少なく、知識や問題意識が低いことが予想される。環境問題の実情にふれ、「なぜ、自分たちにできること」を考えるのか今一度共通理解する必要あると考えられる。さらに、この項目では環境問題について、規模の大きなものに目を向けることができるものの身近な環境への視点が乏しいことも分かった。「自分にできること」として多くの回答が得られているだけに、身近な環境における課題を見つめ直すことで、実践力の高まりが期待できる。(アンケート4・5参照)

(2) 地域の実態

宮前小学校がある東狭山ヶ丘は、所沢市の北西に位置し、周囲を畑や林に囲まれている。北側には栗林と雑木林が広がり、南側には茶畑や住宅地、公園などが広がっている。また、校区の中央を国道463号(行政道路)が走っており、多くの児童は狭山ヶ丘駅を有する西側から登校している。多様な福祉施設の存在も地域の特色といえる。保育園・老人施設・障害者施設等々15以上もの施設があり、総合的な学習の時間を通じて、交流を深めている。

生活環境という視点では、行政道路を境にした東西で大きく異なっている。林や畑の多い東側、住宅地や商店の多い西側、それぞれに特徴があり、児童にとって幅広い学習対象を有する地域であると考えられる。

5 単元の目標達成の手だて

《手だて1》体験活動の重視

総合的な学習の時間は、体験活動を多く用いることで課題に対しての思いを深めることができる。また、アンケートから本学級の児童は体験活動に対しての興味が高い。そこで次のような体験活動を取り入れる。

①足尾銅山での植樹体験(共通体験)

大規模な環境問題を目の当たりにし、環境保全の一端を担う活動に参加することで、本単元の意欲付けをねらう。また、環境保全に関わる人の話を実際に聞くことで、こうした取り組みの必要性を学ぶ。



「足尾に緑を〜♪」将来への願いをこめて作ったプレート。

足場が悪く、急勾配の斜面にいて植樹をしていく様子。掘っても掘っても石ばかり…。
緑を取り戻すことの大変さを実感した。



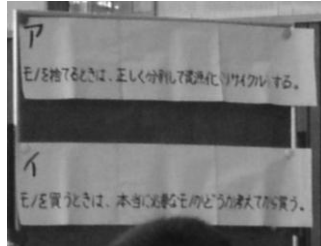
②ゲストティーチャーによる講話（共通体験）

地域に関わるゲストティーチャーを招き話を聞くことで、環境問題が自分たちの身近なところにも存在すること、その改善や保護のために環境保全に取り組んでいる人たちがいることに気づかせる。



【西部クリーンセンター
萩野さんの話】

今、本当に必要なことは、ア・イのどちらでしょうか？



【環境総務課 田口さんの話】



地球規模の環境問題を改善するには、私たち一人ひとりの心がけが必要です。

③地域での実態調査（共通体験）

ゲストティーチャーから話を聞いた後にそれらの問題が本当に存在しているのかや、どの場所で存在しているのかなどの実態を把握し、「自分たちにはなにができるのか」といった課題意識を持たせる。



雑木林の中にはゴミがいっぱい。しかも、町の中のゴミとはちがう！



この辺りはいつもきれいだと思っていたけど、こうやってきれいにしてくれる人がいたんだ。

④探究活動での直接体験

探究活動の段階では、インターネットや図書等での知識習得のみに終始することは避けたい。そこで、課題に沿った調査活動やインタビューを積極的に取り入れての情報収集・分析を行うことで、課題の深まりを期待する。

《手だて2》 児童の思いに沿った主体的・創造的学習活動と教師の意図との共生

児童が単元を通して意欲的に学習するためには児童の思いに沿った主体的な活動が不可欠である。ただし、すべての活動を児童に任せてしまうと探究活動が課題から離れていってしまったり、深まりがみられなくなったりすることも十分予想される。そこで、次の点を考慮して指導にあたる。

①実生活に目を向けながら、計画的な探究活動

課題に対しての探究内容を考える際に、自分の生活を振り返りつつ「自分にできることは」という視点で考えさせる。また、それらの活動が計画的に行われるように綿密な活動計画を考えさせる。

②教師側が課題の道筋を描いた上での助言・修正

教師側が各課題に対してのある程度のゴールと期待する児童の変容を構想に入れ、そこに向かわせるための手だても用意しておく。そして、児童が探究活動に窮したり方向性を誤ったりしそうなときに、主体的な活動をさせながら活動の修正を助言することで創造的な学習の後押しをする。

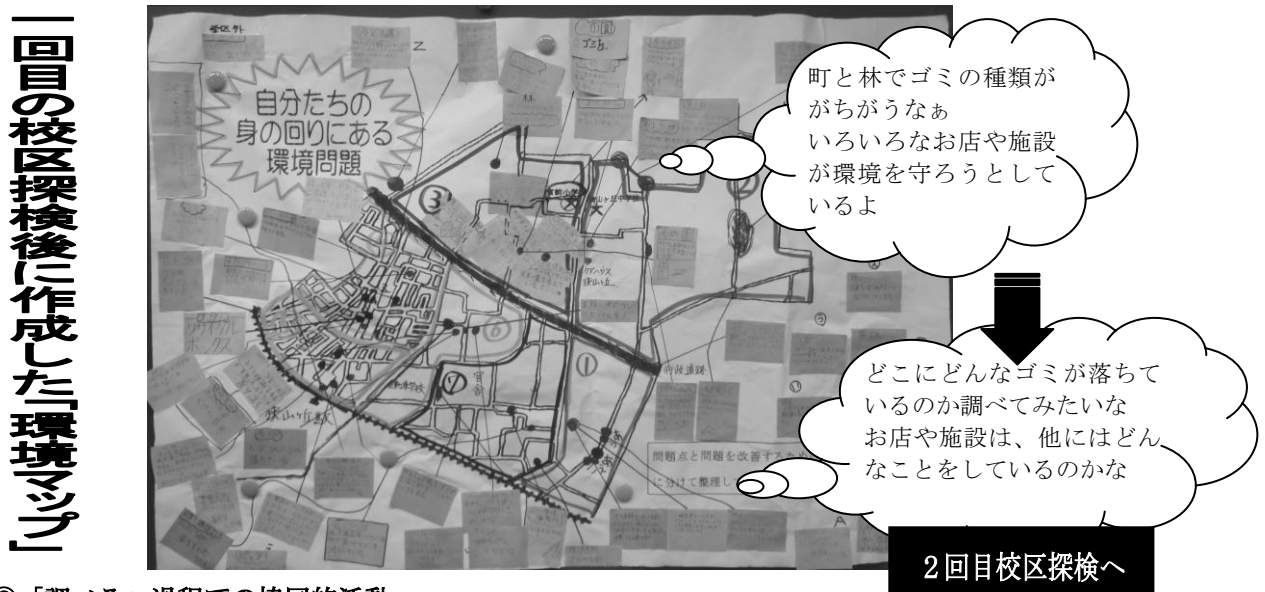
《手だて3》各学習過程で協同的な活動の実施

問題の解決や探究活動では、友達と協力して取り組むことで学習活動の発展が期待できたり、探究活動の質が高まったりするなど、友達と協同して取り組むことが大切である。そこで、各学習において次のような協同的な活動を取り入れる。

①「ふれる」「つかむ」過程での協同的活動（協力した調査活動）

足尾での植樹に始まり、課題をつかむ段階までは共通体験の機会を繰り返し計画している。特に、地域の実態調査は合計3回計画しており、子どもたちはその中でグループによる協同的活動を展開していく。広い校区を限られた時間で調査することは厳しい。そこで、調査をする視点や地域を児童のその時点での興味関心に沿って振り分けて調査を行う。それらの調査結果を全員で集約することで結果的に全員が情報の共有化を図れるようにする。

また、課題に迫る探究活動の場面では、各個人で行うと内容に深まりが出にくいという難しさがあるが、複数でグループを編成すると、違った探究活動を同時に進めることができるなど、より多くの情報収集や分析が可能となる。さらに話し合いの場面では、複数の視点で課題を見つめることにより、相手の意見から新しい気付きを発見したり、自分の考えをより深く見つめ直すことが期待できる。その後の主体的な課題決定に結び付けることができるよう、こうした活動を重点的に取り組みたい。



②「調べる」過程での協同的活動

本単元では、地域の実態把握にウェイトを置いているため、個人の課題追究場面は十分な活動時間があるとは言えない。そこで、活動の時間数や範囲を明確にした上で、グループによる課題追究を推奨することとする。複数人で協力しながら課題解決に向かうことで、限られた時間内で効率的な活動が期待できる。

③「発信する」過程での協同的活動（学習成果発表会）

多くの時間を費やして活動した成果を発信する場として、また他の班の発表内容を聞く場として学習

発表会を行う。発表者は、自分たちの活動を振り返りながらわかりやすくまとめる作業を通して自分の思いを表現する態度を育む。発表を聞く側は、違う課題に対する考えにふれ、受け入れることで環境問題への理解を深める。発表会ではお世話になった方々や保護者も招待する。

《手だて4》「単元の事前チェックシート」の活用

本研究班では研究主題にある「総合的な学習の時間を成立させる要件」を具体化したチェックシートを考案した。本単元でもこのチェックシートを用いて本単元を計画した。今後もチェックシートを生かしながら計画の修正を図れるようにしていく。

☆単元の事前チェックシート

単元名		ふるさと東狭山ヶ丘を見つめて ～今、自分にできること～																									
単元について		直接体験があるか	繰り返しの体験があるか	発展的な教材か	横断総合的になっているか	児童の興味関心にそっているか	地域固有であるか																				
期待する児童の変容		様々な環境問題に対して、それらを単に事実として捉えたり理解したりするだけでなく、自分たちにもかかわりのある問題であると言うことに気付かせたい。また、環境問題を改善するにはどうしたらよいかを考える場面では、身近な生活に目を向け現実的な視点から、自分たちに何ができるのか主体的に考え・行動できる力が育つことを期待している。																									
	学習態度	主体的	創造的	協同的	体験	横断的・総合的	育てたい力																				
							学習方法に関すること										自分自身に関すること					他者や社会との					
							問題を解決する	解決の方法や手順を立てる	手段を選択し、情報を収集する	必要な情報を収集し分析する	理解する	問題状況における事実や関係を把握し	多様な情報の中にある特徴を見付ける	課題解決に向けて考えを比較し	相手や目的に応じて、分かりやすくまとめる、表現する	学習の仕方や進め方を振り返り、学習生活に生かそうとする	自らの行為について意思決定する	目標を設定し、課題の解決に向けて行動する	自らの生活の在り方を見直し、実践する	自己の将来を考え、夢や希望をもつ	異なる意見や他者の考えを受け入れる	他者と協同して課題を解決する	身の回りの環境とのかかわりを考え、生活する	課題の解決に向けて地域の活動に参加する			
探究的学習過程	課題設定	◎		○	◎	○	◎		○	○	○	○	○			◎	◎								○	○	◎
	情報収集	◎	◎	○	○	◎		◎	◎	◎	◎	○		○	○	○	◎				◎	△	◎		◎	△	
	整理・分析	◎	◎	○		◎		○	◎	◎	◎	◎		○	○	◎					○	△					
	まとめ・表現	◎	◎	◎	○	◎		◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	◎	△

◎＝重点的に取り扱いたいところ ○＝関連のあるところ △＝一部の児童に該当すると思われるところ

《手立て5》単元を通した中での横断的・総合的な学習の把握

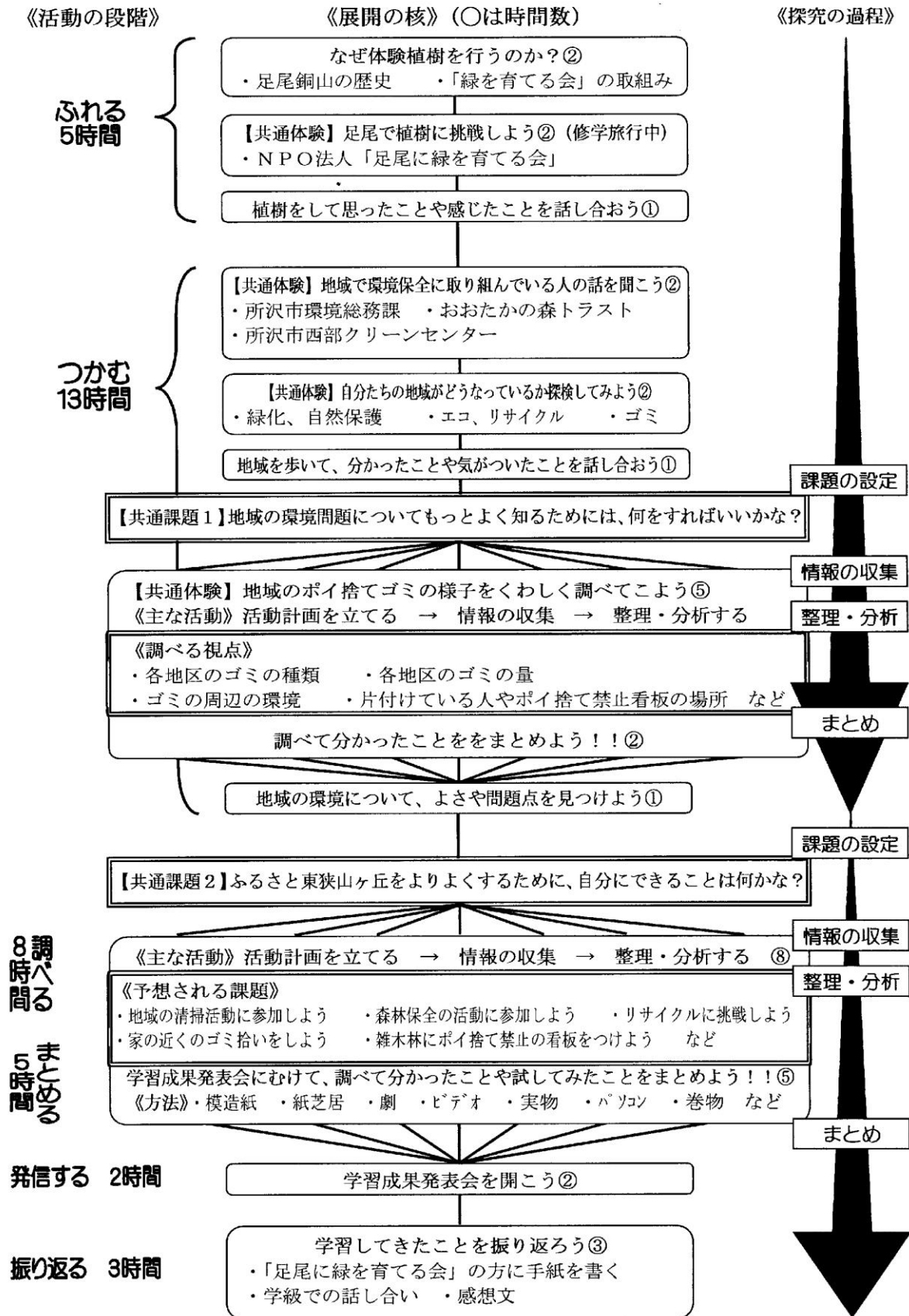
総合的な学習において、各教科等の学習を通して身につけた知識や技能等は、児童の中で一体となって働くものと考えられる。また、単元を構成する中で「この教科で身につけた力」や「この教科のこの単元で学習したこと」を教師が把握しておくことが重要であるとする。それは、教師が児童の活動の良さを見取る視点にできるからである。そこで、たとえば言語活動をしている児童には国語で身につけた力、グラフ化している児童には算数で身につけた力が生かされていることを認めることができるように、単元を総合的・横断的に把握しておく。

6 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

学習方法に関すること	地域の環境問題に対して事実に基づいて理解し、そこから課題を設定するとともに、見通しを持って情報を収集したり分析したりできる。
自分自身に関すること	地域をよりよくするために自分にできることを主体的に考えとともに、自らの生活の在り方を見直すことができる。
他者や社会とのかかわりに関すること	友達の意見や考えを参考にしながら活動したり、課題を解決するために身の回りの環境に適切にかかわることができる。

(2) 構想案《36時間》(総合34+学校行事2) 10~12月



(3) 活動の構想詳細案 (本時 18 / 36)

過程	時間	活動内容及び配慮事項	評価
ふれる 5時間	2	<p>◎なぜ体験植樹を行うのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足尾銅山の歴史を学び、人為的な公害が自然破壊を引き起こしたことを知る。 ・美しい自然を取りも戻そうと努力している人々の活動を紹介し、環境保全に対する意識を高める。(VTR視聴) 	<ul style="list-style-type: none"> ・足尾銅山の歴史や、「緑を育てる会」の活動について、事実に基づいて理解することができる。 <p>【学習方法】</p>
	2	<p>◎修学旅行で実際に足尾銅山を訪れ、体験植樹を行う。</p> <p>【共通体験】(協力者：NPO法人「足尾に緑を育てる会」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足尾市の環境学習センターを訪問し、こうした活動の価値を確認する。 ・指定された場所で体験植樹を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動したときの気持ちを振り返り、これからの学習について主体的に考えることができる。 <p>【自分自身】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を持って積極的に植樹に参加している。 <p>【他者や社会とのかかわり】</p>
	1	<p>◎活動後の感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験を通じて感じたことや、これからどのような活動をしていきたいかについて話し合う。 	
<p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した環境問題についてふれることで、継続的な活動であることを伝える。 ・体験植樹では、事前の学習をていねいに行うことで活動への意欲や理解を促したり、思いを込めて作成したプレートを木にかけるなど、単なる体験活動にならないよう留意する。 ・体験して感じたことを、話し合いを通じてしっかりと振り返ることで、この後の学習に対する興味・関心の高まりへとつなげる。 			
つかむ 13時間	2	<p>◎自分たちの身近な環境問題や環境保全の取り組みについて、それらにかかわっている人から話を聞く。【共通体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で環境保全に取り組んでいる人たちから話を聞き、身近なところにも環境問題があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の環境問題に対して事実に基づいて理解し、見通しを持って情報を収集したり分析したりできる。 <p>【学習方法】</p>
	2	<p>◎自分たちの地域がどうなっているか、実際に歩いて見つめてみる。【共通体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に見所マップを作成し、そのポイントを中心に班ごとに活動する。 <p>◎地域を歩いて、分かったことや気がついたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことや分かったことをイメージマップにまとめ、情報を共有する。 <p>◎地域の環境問題について、もっとよく知るために、情報を集めそれを整理・分析する。(話し合いの結果、ポイ捨てゴミの調査へ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したイメージマップをもとに、地域の環境問題をもっとよく知るための活動計画を立てる。 ・情報を収集し、それを整理・分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のゴミの実態を知ること、地域をよりよくしようとする思いを持つことができる。 <p>【自分自身】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境に積極的ににかかわりながら、課題意識を高めることができる。 <p>【他者や社会とのかかわり】</p>

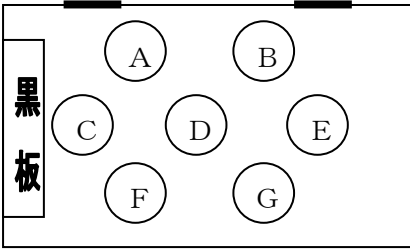
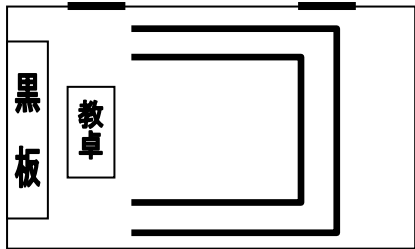
	<p>予想される課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区のゴミの種類 ・各地区のゴミの量 ・ゴミの周辺環境 ・片付けている人やポイ捨て禁止看板の場所 など <p>◎調べて分かったことをまとめ、地域の環境について、よさや問題点を話し合う。(本時3/3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態を学級全体で共有し、地域の環境をよりよくするには、一人ひとりの心がけが必要であることを知る。 	
	<p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に関連する本を狭山ヶ丘図書館から借り、資料の充実を図る。 ・話を聞かせていただいた方には、その後の調べ学習においてもアドバイスしていただき、より深く課題を追究することにつなげる。 ・実際に地域を歩く際は予め視点を示し、ただの見学にならないよう留意する。 ・「もっと地域のことを知りたい」という子どもたちの思いを引き出しながら、具体的・科学的な視点を大切に情報収集活動に取り組む。 ・地域の実態を話し合う活動では、地域のよさにもしっかりと目を向け、自分たちの地域をよりよくしたいという雰囲気高められるように配慮する。 	
調べる 8時間	<p>8 ◎地域をよりよくするために、自分にできることをやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態をよく考えながら、活動計画を立てる。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集したり、それを整理・分析しながら課題を追究していく。 <p>予想される課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の清掃活動に参加しよう ・森林保全の活動に参加しよう ・リサイクルに挑戦しよう ・家の近くのゴミ拾いをしよう ・雑木林にポイ捨て禁止の看板をつけよう など 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って活動計画を立てるとともに、必要な情報を収集したり分析したりすることができる。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域をよりよくするには何ができるか主体的に考え、課題を決定することができる。 <p>【自分自身】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の意見を参考にしたり、身の回りの環境に積極的にかかわりながら、課題に迫ることができる。 <p>【他者や社会とのかかわり】</p>
	<p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の際、共通の課題を選択した児童でグループを作ったり、お互いに意見交換したりするなど、協同的な学習を充実させる。 ・情報を収集・分析するだけでなく、実生活に目を向けながら実際に試してみたり見学したりする活動が展開されるよう支援する。 ・探求活動が充実するように、学習支援員を加配したり時間割を弾力的に取り扱ったりする。 	

まとめる 5時間	5	<p>◎学習成果発表会に向けて、調べて分かったことや試してみたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級で話し合い、多様なまとめ方があることを知る。 ・自分に合った発表内容や発表方法を決定する。 ・材料を用意して、計画的に活動を進める。 <p>予想される発表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・紙芝居 ・劇 ・ビデオ ・実物 ・パワコン ・巻物 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じて、分かりやすくまとめることができる。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った発表内容や発表方法を決定できる。 <p>【自分自身】</p>
	<p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題の事象面をまとめるだけでなく、自分の生活を見直しながら実際に実践してきたことや、気持ちの変容などが十分に含まれるように、まとめる内容の視点を明確にする。 ・グループで発表を行う班については、その中で一人ひとりの思いが記されるように助言する。 ・発表会の概要について説明することで、見通しをもってまとめられるよう支援する。 		
発信する 2時間	2	<p>◎学習成果発表会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体を2グループ（発表班&見学班）に分けて、体育館で発表会を行う。 <p>（始めの会 → 発表会前後半 → 感想発表 → 終わりの会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お世話になった方や保護者を招待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った方法で、調べたことや試したことを分かりやすく表現することができる。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞き、環境問題に対する考え方を広げることができる。 <p>【他者や社会とのかかわり】</p>
	<p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や協力者を招待し、お世話になった方々にも学習成果を発信する。 ・情報機器や実物など発表方法に応じて、場の設定を工夫する。 ・発表者としてだけでなく聞き手としても積極的な態度で参加できるよう十分に事前指導を行う。 		
振り返る 3時間	3	<p>◎学習してきたことを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全にかかわっている方の話を聞き、その思いを知る。 <p>【共通体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの私たちができることや将来への願いについて、学級で話し合う。 ・「緑を育てる会」の人や自分がお世話になった人に、心を込めて手紙を書く。 ・活動を終えての自分の気持ちを感想文で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題に対する将来的な視点で、自分の決意を表現することができる。 <p>【自分自身】</p>
	<p>【配慮事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通体験では、環境保全に尽力している方に協力を依頼し、活動の必要性を再確認する。 ・話し合いでは、これからの生活に目を向けることで、意識が継続するよう留意する。 ・お世話になった方への手紙では、自分の考えの変容やこれからの決意が書けるよう助言する。 		

7 本時の活動

(1) 本時の目標 地域の環境の良さや問題点を整理することで、自分たちの地域をよりよくしようとする思いを持つことができる。

(2) 活動の展開

児童の活動	指導上の留意点 (○) 評価 (※) 支援 (◇)	時間
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>「ふるさと狭山ヶ丘」をよりよくするために、地域のよさや問題点を見つけよう</p>	<p>○学習の流れを確認する。</p>	<p>2分</p>
<p>2 地域のポイ捨てゴミについて調査した結果をもとに、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を活用して、「西部クリーンセンター」荻野さんの話を振り返る。 ・ 資料を生かして、グループごとに地域のポイ捨てゴミについて、気がついたことを発表する。 	<p>○見つけ方のポイントや学習カードの使い方を確認する。</p> <p>【見つけ方のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフや地図を比較しながら、なぜ地区によって違いができるのかよく考える。 ・ 調査結果を手掛かりにして、人の行動や気持ちを想像する。 <p>○活動の最初に「西部クリーンセンター」荻野さんの話を振り返ることで、地域のゴミ問題について話し合うことの価値を確認する。</p> <p>○前時に自分の考えをまとめさせておき、グループでの話し合いから始められるようにする。</p> <p>◇資料同士の関連やポイ捨てゴミの問題点を予め教師が整理しておき、子どもたちが気がつかない時など、必要に応じて助言する。</p> <p>【資料】</p> <p>①ゴミの種類 (帯グラフ) ②ゴミの量 (棒グラフ) ③ゴミの周辺の環境 (絵地図) ④ゴミの特徴 (簡単な言葉)</p>	<p>15分</p>
<p>3 グループで出た意見をもとに全員で話し合い、地域のよさや問題点を見つける。</p> 	<p>○資料から読み取った意見をもとに、「地区による違いがなぜおこるのか」や「なぜ人はポイ捨てしてしまうのか」など、より深く問題を見つめていく。</p> <p>○子どもたちの意見から、地域のゴミ問題を改善するために努力している人々についてもふれ、問題点ばかりではないことを確認する。</p> <p>※地域のポイ捨てゴミについて、事実に基づいて理解し、情報を分析することができる。 【学習方法】</p> <p>◇できるかぎり子どもたちの言葉で話し合いを進めるが、話し合いの方向がねらいから遠ざかったり、深まらなかった時は、積極的に助言する。</p>	<p>20分</p>
<p>4 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習をもとに、自分の感じたことをまとめる。 ・ 活動に対する評価と次回からの活動の流れを伝える。 	<p>○まとめの中に、「何ができるか」という視点で書いている子どもを意図的に指名し、発表してもらおう。</p> <p>○しっかりと情報を分析・整理することで、地域のポイ捨てゴミの実態に迫れたことを称賛する。</p> <p>○「環境総務課」田口さんが話してくれた、<u>環境保全は一人ひとりの心がけから始まる</u>という言葉と、一人ひとりの心がけから活動規模を大きくしていった「足尾に緑を育てる会」の取り組みを思い出させ、次時から自分にできることを考え実践していくことを伝える。</p> <p>※話し合いの内容から地域をよりよくしようとする思いを持つこと</p>	<p>3分</p>

	ができる。	【自分自身】
--	-------	--------

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

総合的な学習は、「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものであるが、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成できていないという状況も見られた。その課題を解決するために今年度、総合的な学習のねらいを達成する授業の展開についての単元チェックシートを作成し、活用することにより改善を図ろうと試みたものである。

単元チェックシートには、総合的な学習の授業を展開するために必要な内容がチェックできるよう配慮した。

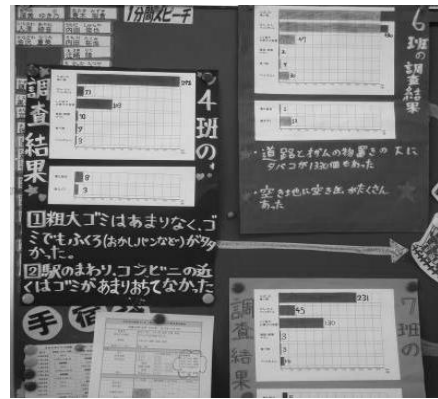
単元チェックシートを基に行った検証授業の内容からまとめると、以下のようになる。

○ 探究的な学習にすることができた。

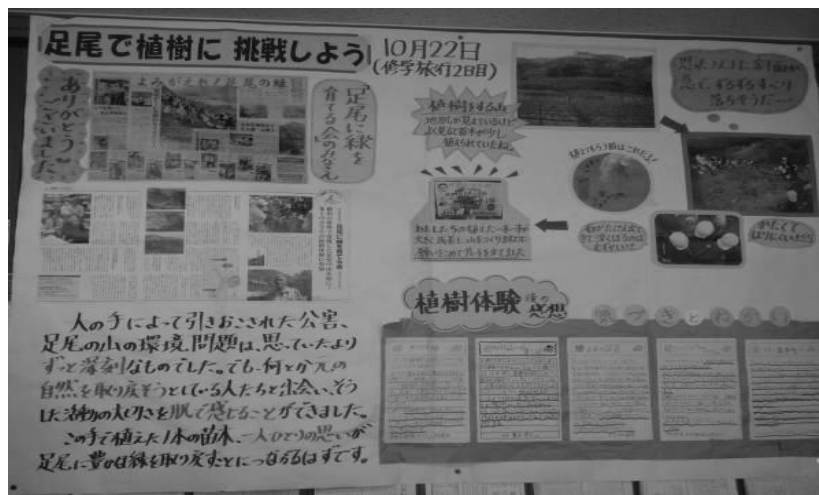
- ・ **課題設定 ⇒ 情報収集 ⇒ 整理・分析 ⇒ まとめ・表現** を1単元の中に2回組み入れ、スパイラルに単元を構成することができた。
- ・ 特に、課題設定では目と足を使って地域を見つめ、そこから課題を浮き彫りにできた。このように活動の中から生まれる小さな課題を大切にしていけるべきである。

○ 話し合い活動が深まる授業になっていた。

- ・ 科学的・客観的のデータに基づき具体的に話し合いをさせたことにより、課題に対する考えが深まる授業になっていた。話し合い活動は、具体的なデータを基に行われなければならない。



- ・ 学びの経緯がわかる掲示物を工夫することで、常に学習の方向性を保った状態で話し合いを深めていくことができた。



- 教師の意図的な指導により「学びどころ・学ばせどころ」のある授業になっていた。
 - ・課題を一つに絞ることにより、みんなで一つに向かっていく活動になり、考えを深め合うことができた。具体的には表やグラフを利用して問題点を共有したり、「自分たちにできることは何か」を共通テーマで話し合えたりできたことである。
 - ・単元を開発していく上で、「単元チェックシート」を活用することで、「子どもの思い」を大切にしながら、教師が意図する「学ばせどころ」に結びつけることができた。
- 児童の変容が見て取れる「分かる授業」になっていた。
 - ・ごみの多かった道路を「ごみロード」と自分なりの言葉で表現しているなど、児童が課題を自分のこととして捉えていた。言葉が豊かになっており、深い学びになっていたことがわかる。
- 横断的・総合的な学習を取り入れた授業になっていた。
 - ・科学的視点（グラフや表等）の分析に情緒的視点（詩や作文等）も取り入れて課題に迫ることができていた。このように授業を進めるにあたっては、科学的な分析だけでなく、それを支える思いや願いも取り上げることが大切である。
- 子どもたちの感想
 「教育の有効性は、教育を受けた子どもの姿から実証されなければならない。」（嶋野道弘先生談）

ごみ拾いは、結構楽しかったのですが、結局2回で終わりました。でも、冬休み前にやった地域のごみ拾いより、タバコをいっぱい拾いました。冬休みに入って、これまであんまり気にしていなかったごみが、今では、すごくごみが目立って見えます。これは、ごみが増えたのではなく、自分で自然とごみの問題に関心を持ったのだと思います。

これは、ある男子児童の学習後の感想である。この児童は自分の変容を実感し、学ぶことの意味や価値を理解している。これはこの児童の成長にとって大切なものであると私たちは考える。

2 今後の課題

- 研究を進める中から、各教師がプロとして自己責任を持って授業づくりに取り組むことの大切さを痛感した。さらに、子どものことばや思いを拾い上げ、注目させたい考えや表現を明確にしていく等、学びどころを大切にしなければならない。
- 単元作りには教師が互いに相談し合い、総合的な学習が成立する要件を踏まえて内容を充実させていく協力体制を整えることが大切である。
- グラフ化するのにも見通しを持たせるのが難しかった。このことから、教科等の学習の積み重ねが大切であることが分かった。各教科等においても総合的な学習の中での活用を視野に入れた指導が必要である。
- 今回、単元開発に生かすチェックシートを作成した。単元全体を考えるには有効であったが、研

究を進める中で、探究的学習過程の重要性を強く感じた。今後は探究的学習過程の指導のポイントについてさらに研究を深めていきたい。

<単元の事前チェックシート>

☆単元の事前チェックシート

単元名		直接体験があるか		繰り返しの体験があるか		発展的な教材か		横断総合的になっているか		児童の興味関心そっているか		地域固有であるか		
単元について														
期待する児童の変容														
探究的学習過程	課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	横断的・総合的		体験		学習態度		育てたい力						
		協同的		主体的		創造的		学習方法に関すること		自分自身に関すること		他者や社会との		
問題設定する		解決の方法や手順を考え、見通しを持つて計画を立てる		手段を選択し、情報を収集する		必要な情報を収集し分析する		把握し理解する		多様な情報の中にある特徴を見つける		課題、解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える		
すくまとめ、表現する		相手や目的に応じて、分かりやすくとめ、表現する		学習や生活に生かそうとする		自己の将来を考え、夢や希望をもつ		異なる意見や他者の考えを受け入れる		他者と協同して課題を解決する		課題の解決に向けて地域の活動に参加する		